

レッスン 2--ルツ記 4 章 1-8 節

贖いの持つ意味

10月11日、この素晴らしい日曜日に大阪インターナショナルチャーチによるこそお越しくございました。私は、チャーリー・シーレンと申します。私の妻、テレサと私は、サザンバプテストの宣教師としてこの大阪で宣教活動をしています。長年日本で奉仕している私たちにとって OIC の皆さんは素晴らしい同胞、大切な友で、今朝こうして皆さんと時間を共にすることができることを光栄に思っています。

はじめに

アメリカでは最近、家系図を遡ることに人気が集まっています。Ancestry.com（自分の祖先を調べることができるサービス）の広告をしばしば見かけます。実は私の苗字「シーレン (Seelen)」は、ドイツ語の「ボン・シーレン (Von-Seelen)」から来ています。私の祖父母は、ドイツにボン・シーレンの城があると教えてくれました。私の祖先がアメリカへ渡った時、「ボン」の部分に愛して「シーレン」のみにしたようです。

先週、ルツの物語とその系図について学びました。ルツはモアブの地出身のモアブ人でした。モアブ人は歴史の中で、神の民であるユダヤ人から敵として扱われてきました。

ですが、モアブ人の興味深い事実として、彼らがアブラハムの甥であるロトと、その娘たちのうちの一人との近親相姦によって生まれた子孫であるということです。ですから、この完璧さには欠ける系図を通して、ダビデ王の家系が形づくられたこととなります（マタイ 1:5-6）。そして最終的に 42 代後に、イエス・キリストがお生まれになるのです（マタイ 1:17）。

私はこのような聖書の出来事を分かち合うのが大好きです。それは、聖書に出てくる人々も完璧ではないとわかるからです。彼らにも、私たちと同じように傷があり、癖があり、コンプレックスがあったのです。ルツは神に愛され、ルツの物語は私たち自身の物語なのです。

ルツにどのようなことが起こったか覚えていますか？聖書には、ルツはヘブライ人と結婚していましたがその夫が死んでしまった、とあります。ですから、義理の母であったナオミはルツをモアブの地からベツレヘムへと連れて行きます。ルツが町に着くやいなや、収穫後の畑に残った落穂拾いを始めなければいけません。ここで、ルツの立場に立ってみましょう。ベツレヘムのことは何もわからず、ユダヤ人に見下され、落穂を探しに行くほど貧しい状態です。しかしルツは親類が所有する畑に遭遇します。ナオミとルツを救う力のある親類です。

先週、「贖う」とは「買い戻す」ということだとお話しました。この聖書箇所の中では、ボアズは「買い戻すの権利のある親類」とされています。イザヤ書 41:14 には、神について「あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者」と書かれています。この「贖う者(ヘブライ語では goel)」という言葉は、贖いの意味を説明してくれるルツ記で登場する言葉と同じ言葉です。

ナオミは、経済的理由から抵当に入っている土地を失いかけていました。ボアズはその土地を「買い戻す(贖う)」準備をしています。抵当に入ったのは数年前に飢饉のあった時で、それはナオミの夫が家族を食べさせていくためにしたことでした。清算の期日がついにきてしまいます。ボアズは、買い戻すの権利のある親類としてルツと家族のために立ち上がりました。

今日の聖書箇所からは、そこに示される贖いの意味を見ることができます。

ルツの物語は私たちの物語です。それは、この物語が、私たちが失ったものを贖ってくださるイエス・キリストの美しい描写であるからです。私たちが失ったものとは何でしょうか。今日は、私と皆さんが失ったものについて述べたいと思います。贖いの持つ意味をお伝えしましょう。私たちが失ったのは、土地ではありません。私たちが失ったのは、仕事でもありません。私たちが失ったのは、私たちの命なのです！ 私たちは命を失い、神様はそれを買戻そうとされているのです。

皆さん混乱されているかもしれませんね。ここで2つの種類の生き方について説明しましょう。まずは、内にある不穏な状態を物質的なものや業績で満たそうとする、身体的・物質的な生き方です。これは、失った命の痛みを和らげようと行動で試みようとするものです。一方で、同じく内に平安のない不穏な状態を持ちながらも、それをお金や車、家、家族や業績で満たそうとするのではなく、創造主なる神との関係によってのみ満たそうとする霊的な生き方です。この神との関係は、私たちの命を買戻してくださる贖い主、イエス・キリストを通してのみ持つことができるものです。では、ルツ記4章1-8節を読んでみましょう。

4:1 一方、ボアズは門のところへ上って行って、そこにすわった。すると、ちょうど、ボアズが言ったあの買戻しの権利のある親類の人が通りかかった。ボアズは、彼にことばをかけた。「ああ、もしもし、こちらに立ち寄って、おすわりになってください。」彼は立ち寄ってすわった。4:2 それから、ボアズは、町の長老十人を招いて、「ここにおすわりください」と言ったので、彼らもすわった。4:3 そこで、ボアズは、その買戻しの権利のある親類の人に言った。「モアブの野から帰って来たナオミは、私たちの身内のエリメレクの畑を売ることになっています。4:4 私はそれをあなたの耳に入れ、ここにすわっている人々と私の民の長老たちとの前で、それを買いなさいと、言おうと思ったのです。もし、あなたがそれを買戻すつもりなら、それを買戻してください。しかし、もしそれを買戻さないのなら、私にそう言って知らせてください。あなたをさしおいて、それを買戻す人はいないのです。私はあなたの次なのですから。」すると彼は言った。「私が買戻しましょう。」4:5 そこで、ボアズは言った。「あなたがナオミの手からその畑を買うときには、死んだ者の名をその相続地に起こすために、死んだ者の妻であったモアブの女ルツをも買わなければなりません。」4:6 その買戻しの権利のある親類の人は言った。「私には自分のために、その土地を買戻すことはできません。私自身の相続地をそこなうことになるといけませんから。あなたが私に代わって買戻してください。私は買戻すことができませんから。」4:7 昔、イスラエルでは、買戻しや権利の譲渡をする場合、すべての取り引きを有効にするために、一方が自分のはきものを脱いで、それを相手に渡す習慣があった。これがイスラエルにおける証明の方法であった。4:8 それで、この買戻しの権利のある親類の人はボアズに、「あなたがお買いなさい」と言って、自分のはきものを脱いだ。

私が今から皆さんに分かち合いたいのは、皆さん自身の物語です。ボアズがルツと呼ばれるモアブ人を贖ったのとまさに同じように、皆さんをお造りになった創造主である神が、あなたの失った命を買戻されるのです。では、実際に見ていきましょう。

A. キリストによる私たちの贖いは明らかにされるべきものである (1-2 節)

1 節には、「一方、ボアズは門のところへ上って行って、」とあります。その時代の議会は、いつも門を入ったところで集まっていた。ボアズは、より近い親類を探しています。ここで名前は明かされていませんが、親族の誰かが町を通りかかり、ボアズはその人を見つけ、少し話す時間があるかと問いかけます。ボアズはベツレヘムの長老たちと買戻しについて話し合うために町の門の所に上って

来ていました。ここで話されている言葉に注目してみてください。「ここに立ち寄ってください」「おすわりください」「私たちと一緒にすわってください」などと言っています。

贖いは、隠されるべきことではありません。

キリストのなされた働きは、秘密にされるべきものではないのです。

家族という時、職場で、学校で、友人という時、「さあ、一緒にすわって。最近どうしてるのか教えて。何か力になれることはある？何か祈って欲しいことはある？」というように。

私たちの借金はお金で支払うことができないものです。この借金は、命でしか支払えないものなのです（ローマ 6:23）。キリストは豊かな命を与えるために来られました。

ヨハネ 10:10 「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」

あなたの贖いは、秘密にしておくべきことではありません。

私たちの救いの物語を日曜日だけの話題にすることがないよう、神が助けてくださいますように。

B. キリストによる私たちの贖いには、力強い動機がある (3-6 節)

5 節で、ボアズは、「ところで、もしも土地を買い戻すのでしたら、モアブ人のルツを妻として取らなければなりませんよ」と言いました。相手の反応を見てみましょう。

4:6 「その買い戻しの権利のある親類の人は言った。「私には自分のために、その土地を買い戻すことはできません。私自身の相続地をそこなうことになるといけませんから。あなたが私に代わって買い戻してください。私は買い戻すことができませんから。」

その親類は、その土地を買い戻し、ルツと結婚することは、彼の相続に悪影響がある可能性があるからできない、と言いました。つまり、親から勘当されるという意味です。

もしもモアブ人のように、苦い過去を持ち、傷や癖、コンプレックスで苦しむ人たちを気にかけない教会があったとしたら、私はその姿勢に疑問を持たざるを得ませんが、幸い大阪インターナショナルチャーチはそのような教会ではありません。

4:5 「あなたがナオミの手からその畑を買うときには・・・モアブの女ルツをも買わなければなりません。」次の点に注目してみましょう。

- 買戻しに関する立法では、ルツとの結婚は要求されていません（レビ記 25 章）それを強く望んでいたのはナオミでした。
- ボアズのルツとの関係は、ボアズが持つルツへの愛から来たものでした。ボアズよりも近い親類で買戻しの権利のある人（1 節）は、「私には自分のために、その土地を買い戻すことはできません。私自身の相続地をそこなうことになるといけませんから。」と返答しました。ルツのせいで、この人が相続の権利を奪われてしまうかもしれないからです。

1. キリストは、あなたを愛するゆえに贖われる

宗教は「あなたのような人は近くに寄ってくるな。自分でまず身をきよめてきなさい」というようなものですが、キリスト教は、愛に基づいています。それは、打ち砕かれ、失われた者へ恵みをたれ、私たちの陥っている破滅的な状況から救ってくださる愛です。

ヨハネ 15:13 「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

もしも自分に価値が無いと感じているなら、ルツのことを思い起こしてみましょう。ルツの物語はあなたの物語なのですから。

2. キリストのあなたへの愛は、贖いを理解することで知ることができる

これは、エペソ人にパウロが説明しようとしていたことと同じポイントです。

エペソ 3 : 18-19 「3:18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、 3:19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。」

18 節でパウロが言っていることに注目しましょう。パウロはまるで言葉で遊んでいるようです。エペソ人が人知を超えた何かを理解することができるようにと祈りました。これは矛盾したことではないのでしょうか？

いいえ、決してそんなことはありません。私たちは、ある種の知識に到達する訳ですが、それは事実の積み重ねだけではなく、個々の経験にもよるものです。ギリシャ語には「知識」を意味する言葉が 2 つあります。「oida」は、事実やデータ、情報のことを指します。「Ginosko」は、経験によって身につけられた知識を指します。エペソ人への手紙で、キリストの愛を信者が知ることができるように神に求める中でパウロが使った言葉は、「Ginosko」です。信者の持つ希望は、魂の内に深く経験する神の愛の知識を知ることです。それはただ、愛する方のことをよく知っていて語るができるだけではなく、その方のご臨在や包み込む温かさを感じる喜びを知っている、という知識です。

このように私たちが神の愛を知る時、私たちは「神ご自身の満ち満ちたさまにまで、満たされます (19 節) 」

3. キリストのあなたの贖いは私たちの代わりに立法を成就してくれる

贖いは、立法的な問題であり、キリストは私たちの代わりに立法を成就するために来られました。(マタイ 5 : 17-20)

もしも、「体の死を経験する時、創造主の御前に立ち、自分がしたことがすべて大きなスクリーンに映し出され、自分自身の罪の価を支払わなければならない」と説教者が教えるような教会があったとしたら、その説教者は皆さんを欺いています。キリストは、私たちの罪の代価を支払いに来られたのです。私たちが犯した罪、そしてこれから犯す罪はすべて十字架にかけられました。神が私たちをご覧になる時、神の御子という完全なレンズを介して私たちをご覧になるのです。

またキリストの贖いは、私に目的に満ちた働きを与えてくださっています。

c. キリストのあなたの贖いは、目的に満ちた働きを与えてくれる (7-8 節)

昔、所有地の権利が譲渡されたとき、履物をぬぎ、新しい所有者に渡すという慣習がありました。私たちの命は、今新しい所有者のもとにあります。私たちは今や、不完全な人たち一買戻しの権利のある親類であるイエス・キリストによって贖われた人たち一で構成された系図の一部となりました。そして今、私たちはこのことを伝える特権にあずかっているのです。

ローマ 10:13-15 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。10:14 しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じていることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。10:15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおります。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」